

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403590		
法人名	有限会社 TOMO		
事業所名	グループホーム トモ・ハウス		
所在地	いわき市中之作字勝見ヶ浦49-18 (電話) 0246-55-5220		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年3月30日	評価確定日	平成19年4月27日

【情報提供票より】(2007年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 26日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	4階建ての	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,600	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有()	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食		円	昼食		円
	夕食		円	おやつ		円
	または1日当たり		1,575	円		

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名	
要介護1	2名	要介護2		3名		
要介護3		名	要介護4		4名	
要介護5		名	要支援2			
年齢	平均	84.7歳	最低	78歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かしま病院・中山医院・鈴木歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは眼下に広がる海岸線に沿って建っている。運営者は直接介護事業と関わりのない仕事に就いていたが、地域の中で困っている人達を支援したいという強い思いから、看護師で介護支援専門員である妻と協働で1階はデイサービス、2階がグループホームとして開設した経緯がある。ご自身もヘルパーの資格をとり、入居者や家族の状況把握や職員のバックアップに努めている。地域に根ざしたホームを目指し、入居者とその人らしく暮らし続けられるために、協力医との連携で二十四時間対応出来る体制で入居者のケアに努めている。管理者は地域の特性を活かした関係づくりや、認知症を理解し、決して入居者に無理強いはいしないケアと、一人ひとりのペースに合わせて能力を見出し、入居者に寄り添ったケアに取り組んでいる。オール電化の最新設備を備え安全性を高めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 初めての外部評価に備え、管理者は監査と外部評価の違いや意義について職員に分かりやすく伝え、普段のありのままの姿を評価してもらい、評価結果を活かして前向きに取り組んで行くことを全職員で申し合わせた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5) 2ヶ月に一回の運営推進会議は諸事情によりまだ2回のみ開催であるが、ホーム運営状況報告等を行い意見を求めている。地域の情報収集の機会にもなり、自治会にまだ入会していないが、ホーム主催の秋祭りの案内を回覧していただいたり、地域の祭りに入居者が参加し、地域の方々と交流することができた。
	重点項目 入居者の健康状態や、日々の暮らしぶりの状況変化等は、その都度家族に電話で連絡をしている。家族等からの意見や要望は、面会時や入居者の誕生会に出席していただいた機会に声かけを行っている。意見・苦情の窓口も設置され対応の方策をとっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りに参加したり、ホーム主催の秋祭りには地域住民の方々に呼びかけ入居者、家族等と一緒に交流を行った。毎月1回は地域の幼稚園と交流している。ホームの入居者の見守りにガソリンスタンドや協力医にお願いするなど住み慣れた地域で入居者とその人らしく生活できるように積極的に関係づくりに取り組んでいる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	0770403590 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「相互支援社会の実現」とチーム「トモ・ハウス」メンバーの誓い5項目をパンフレットやホームに掲示している。		さらにホームが目指している地域に根ざしたホームとしてのあり方を、理念に反映してほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム玄関に理念を掲示している。管理者はミーティングや月1回の勉強会にて認知症の理解や対応・尊厳について話し、職員の意識づけと共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りに参加したり、ホームで秋祭りを開催し、地域住民に回覧で呼びかけたところ大勢の参加があった。毎月1回幼稚園との交流も定着し、入居者の楽しみになっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設して初めての評価を受けるに当り管理者はサービス評価の意義や目的を伝え、自己評価の項目について話し合いを行った。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年6月に運営推進会議をスタートさせ2カ月に1回開催する予定であったが、運営員の日程調整がつかず定期的な開催にまではなっていないために具体的な取り組みがない。</p>		<p>運営委員の増員や開催日時の設定などの検討と、ホームの現状に添った課題を提起し、意見や要望を引き出せるような運営を期待する。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭出納の収支は毎月報告している。入居者の状況変化等はその都度電話や面会時に伝えているが、入居者の個々にあった定期的な報告は行っていない。</p>		<p>金銭の収支報告と一緒に、ホーム便りや一人ひとりの日々の暮らしぶりを伝える便り等も添え、定期的な報告と家族の関係づくりにもつながるよう継続的に取り組んでほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には声かけ等はしているが、意見や要望等を出せるまでには至っていない。家族会の必要性を感じ、設立について検討中である。</p>		<p>いつでも気軽に意見や要望を伝えられるように意見箱の設置と、ホームの相談窓口や相談者を繰り返し伝え、意見や要望はホームの運営に反映できるように取り組んでほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所の改善により一度併設との異動はあったが、基本的には馴染みの人間関係を大切にケアにつとめている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ミーティング時に議題を決め毎月一回勉強会を開催しているが、外部研修を受ける機会は施設全体で年二回程度で、職員が段階的に受講できる仕組みがない。</p>		<p>外部研修受講者の報告会を行い全職員で情報を共有しているが、研修の年間計画の中で段階的に受講できる機会を設け、質の向上に取り組んでいただきたい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は連絡協議会や管理者の研修会等を通して同業者と交流している。</p>		<p>さらに必要に応じて、他の事業所の訪問等を検討してほしい。</p>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔民宿をしていた入居者に料理の味付けや盛り付け、時には魚のさばき方や餃子の作り方を教えてもらっている。餃子は入居者が全員参加で作るまでになった。男性の職員が洗濯や台所に立っていると心配して手を出して助けてくれ、共に支えあいの関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴や個性を尊重し、疎通の取りにくい入居者には、別の職員が話を聞いたり、また、入居者の求めている事や不安、嬉しい時の表情等を把握し、入居者の意向をとらえるなど、一人ひとりの接し方に配慮しながら把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室の担当制をとり、意見や気づきは計画作成担当者と情報交換を行い、日々のケアに反映させている。面会時に家族の意見を聞き作成されたプランは回覧し、全職員が共有しているが、プランは漠然としていて具体的な取り組みにまで発展していない。		職員一人ひとりが共通の認識に立って入居者に対して同様の支援や対応ができるように、短期目標に対する具体的な取り組みの記述が欲しい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化に合わせ、家族の意見等も聞き随時、定期的見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は24時間対応の体制がある。家族と話し合い、納得の行く形でかかりつけ医から協力医に変えた入居者もいる。入居以前からのかかりつけ医とも連携をとり、通院介助の際は情報提供も行い、その都度家族にも報告をしている。また、訪問診療の体制もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化や終末期医療について管理者は模索している。		重度化した場合の対応について入居者や家族の意向を確認し、ホームとしてどうあるべきか、関係者と話し合いを行い、ホームの対応方針を具体的に定め、家族等の安心につなげてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	日頃より入居者のプライバシー保護について話し合っている。日常生活の中でごくあたり前の事でも注意するように取り組んでいる。入浴やトイレの介助も対応を取り決め、羞恥心に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状況にあわせて、できそうな事を上手に見つけてあげながら入居者のペースにあわせ、日々ゆったり過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は一緒に食事している。トレーやテーブル拭き、盛り付け、食器拭きなど、入居者のできそうな事は職員と一緒にやっている。献立はホームの事情によって、内容を変えることもあるが、基本的には、献立や食材の購入は業者に委託している。		献立から入居者が参加し食材の買い物や、調理に参加する過程を入居者の個々の力が活かせる機会として、食事が喜びや楽しみにつながるよう検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者が一人ひとりゆったり入浴できるように希望を確認している。入浴拒否する入居者には声かけのタイミング、入浴の時間帯、無理にはすすめないなど配慮し支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	入居者のその日の状態にあわせて、できそうな事をしてもらっている。楽しみ事としては、献立の餃子作りや、週2回デイの利用者との体操、幼稚園との交流、家族も一緒に参加して行っている誕生会などいろいろな場面を通して入居者のケアにつながっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	入居者の状態や天候にあわせて近くの公園に散歩に出かけたりしているが、日常的な取り組みがないために外出の機会が少ない。		日常的に短時間でも外にでる機会は入居者の外出の楽しみや気分転換にもつながるので、その時々状況にあわせて散歩や毎日の食材の買い物、知人宅訪問などの機会を増やし、外出支援に取り組んでほしい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずセンサーで安全面に配慮している。地域のお巡りさんが巡視の際に立ち寄って声かけしてくれたり、ガソリンスタンドや協力医に、入居者の見守りの協力をお願いし自由な生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署の協力で年2回非常災害訓練を実施している。入居者も参加し夜間を想定した訓練や、消火器の扱い方、避難経路の階段を使つての訓練を定期的に行っている。緊急連絡網も整備され連携を図っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立のバランスや栄養摂取量は委託業者にて管理されている。一日の水分量はお茶や入浴後のアルカリイオン水も含め大まかに把握している。食事量の少ない入居者には、高カロリー食を補給するなど、一人ひとりのその日の状態や体調に応じて支援している。</p>		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関にはホームのシンボルでもあるふくろうの置物や鉢花、長椅子を配置し家庭的である。台所と一体化している共有スペースや、海見える畳敷コーナー等は、自由にゆったり過ごせて居心地のよい場所として利用されている。装飾は入居者の状態等にあわせて最小限におさえ、配置の仕方に配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に仏壇や生活用品を持ち込んでその人の居場所として活用されている居室もあるが、持込み品が少なく、寂しく感じられる居室もある。</p>		<p>入居者や家族と話し合い、使い慣れた物、大切にしてきた物等を持ち込み、その人らしく安心して生活できる居室づくりに取り組んでほしい。</p>

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム トモ・ハウス

記入担当者名 柳内 英俊

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。